

平成 24 年度入学式 学長式辞

長崎国際大学

学長 安部 直樹

「春は千林に入る処々の花」という禅語のように、例年のない寒さの冬でしたが、時至り季節はその衣を脱ぎ捨て、レンギョウ、チューリップ、小手毬、桜、春の主演が一斉に躍り出た感のある本日、平成 24 年度の入学式を挙行了しましたところ、多数のご来賓の皆様のご臨席を頂きましたことを心より御礼申し上げます。また、保護者の皆様におかれましては、数ある高等教育機関より本学を選んで頂きましたことを私たち教職員一同は重く受け止め、大切なお子様をお預かりするという責任感のもと、教育の使命を果たして参る所存でございます。

さて、新入生の皆さん、心より歓迎を申し上げます。本日は 435 名の学部生、8 名の大学院生、その中には 4 名の社会人、56 名の留学生をお迎えいたしました。私たち、大学の理念の一つでもありますユニバーサルアクセス、つまり、若者・高齢者・留学生・障がいを持った方々、大学で学びたいと願うさまざまな方々をお迎えしての出発であります。

本学は、学校法人九州文化学園を母体としています。幼稚園・高等学校・短期大学・看護専攻科・調理師、歯科衛生士の専修学校を持つ総合学園であり、関連の長崎リハビリテーション病院、特別養護老人ホームや保育園の各施設が連携して皆さん方の専門的な学問のサポートをいたします。

本学は、平成 12 年に佐世保市、長崎県、地元の企業の多大なご支援とご協力によって誕生いたしました公私協力の大学であります。教育の基本理念を『人間尊重』とし、それを具体的に現したのがモットーであります「いつも、人から。そして、心から。」です。本学が有する学部学科はいずれも、社会に必要とされている『対人サービス』の専門分野であり、利用者中心の目線で徹底した人間尊重を主軸におき、人間性豊かな人材養成を目指します。本学は専門的職業人の養成に力を入れております。プロパーとしての観光の専門家、社会福祉士、精神保健福祉士、管理栄養士、薬剤師等、資格と専門的知識、技能を身につけて下さい。

さて、私が皆さんにお伝えしたいことが三つあります。

第一に、大学での生活の中心は学問であるということです。

学問を通じた人間作りといっても良いかもしれません。そして、学問は真理の追求です。真理とは時代を越えて、普遍的に変わらないものです。と同時に、永久に変わらないものなどこの世にありましようか。人は生まれて必ず死ぬという事実は、これもまた真理の象徴であります。しかし、この真理でさえも、臓器移植や医学の発達によって、死の定義も変わるかもしれません。学ぶことは一歩でも二歩でも真理に近づくことであります。学ぶという終わりなき行為を弛まなく続けることこそ、真理の姿なのかも知れません。学ぶためには“なぜだろう”という学問への疑問から湧き出る動機がなくてはなりません。なぜ、空は青いのか。なぜ、花は鮮やかなのか。ニュートンは木からリンゴが落ちることで万有引力を発見しました。なぜ、人は旅に出るのか。

なぜ、高齢者になると歩行が困難になるのか。なぜ、食べ過ぎると肥えるのか。なぜ咳やくしゃみは出るのか。当たり前の常識から脱却し、理想を求め続ける動機を持つことが学ぶことへのスタートとなるのです。

第二に、皆さんに国際的視野を持っていただきたいということです。

今日のグローバル化社会、21世紀、日本が世界で生き抜いていくためには、国際的視野を持つことが不可欠です。勃興期にあるアジアに一番近いこの地でアジアとの交流を持つこと、留学生の受入れまた、皆さんが積極的に海外に出ていくこと、長期、短期の留学を私たちは積極的にサポートいたします。

第三に、地域を意識して下さい。

地域での皆さんの評価、地域での出会い、地域に根を張り、地域を元気づけ、地域を鼓舞して下さい。そして、地域から学び、地域での人材養成、ひいては地域から評価される大学を皆さんと共に創り上げたいと思います。

また、大学生活において、講義・実習・研究を通じて、新しい知識を発見する喜びを感じることも大切です。未知の知識を修得することで大きな喜びと感動を感じて下さい。さらに、大学生活は出会いの場でもあります。素晴らしい教授陣、気の合った学友、素朴な地域の方々、実習や研修先で出会う方々、もちろん、風光明媚な自然、ハウステンボス、自己の体験など限りない出会いがあります。その出会いを大切にして下さい。そして、学生生活を送ることで、皆さんは、自己の成長、自覚の喜びを感じることでしょう。どんどん成長していく姿に、自分だけでなく親や友人からの立派になったね、大人になったねという言葉の中に、大学は何よりも自己成長を促す場であることを確認し、そこから自信を持って頂きたいと思います。

さらに、大学は社会との関連の中でこそその価値があるということを忘れないで下さい。今、日本が抱える未曾有の課題・懸案である、昨年3月11日の東日本大震災。約16,000人の方が亡くなり、今なお約3,200人の行方不明の方々、今も残る2,200万tを超える瓦礫の処理、現在も避難を余儀なくされている345,000人ものの方々。そして原発事故による放射能の問題等、深刻かつ先延ばしができないものばかりです。加えてこれからの日本は、少子高齢化・人口減少・地方の過疎化・1,000兆円の累積債務等、未来への不安を感じさせるものも少なくありません。だからこそ、皆さん方、若い世代の責任と役割は大きく、寄せられる期待も大きいのです。若い世代が紡ぎだす新しい思考や発想、新しい枠組みこそが、これからの日本そして社会を発展させていく原動力に他なりません。

長崎国際大学に集った皆さん、常に何が出来るかを問い続けて下さい。そうした問題意識を携えて、豊かでホスピタリティに溢れ、エネルギーで元気いっぱいの大学生活を送って下さい。私たち教職員は、皆さんの夢づくりをサポートして参ります。重ねて、本日の皆さんのご入学を歓迎し、式辞といたします。